

季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼^{しつらい}」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。

受講の感想

兜を赤い奉書で折りました。山本三千子先生から、奉書をおさえるときに心を入れる。とのご指導があり、気持ちを通じるようにと、ピシッと気合の入った兜を折りました。角をとがらせるのがとても難しかったです。帰り、粽をいただきながら、中国の屈原の清廉潔白で誇り高い精神を思い、その尊さをもう一度見直したいと、一人勝手に憂いておりました。

(熊丸梨奈)



端午の節供

立夏、小満の時。

初夏が訪れ植物は実をつけ始め

新緑が美しい時期。

端午の節供は

子供の成長を祝う行事であると同時に

古来中国では「重日思想」から

3月3日や5月5日など

奇数の重なる月日は良くない日と

考えられていました。

菖蒲や蓬、粽、柏餅等で災厄を祓い

子供の健やかな成長を祝う日。

兜 陰陽五行によりそれぞれの五常の心を表しています。青は仁、白は義、赤は礼、黒は智、黄は信で、

子供に持つてほしい徳を選びます。

兜の緒

柏餅 柏の木は新芽が出ない限り古い葉が落ちない

ため、家系が絶えないことの象徴とされます。

粽 国を憂いて身を投じた戦国時代の武将屈原を慰

め、強い意志と信念を待った屈原に、子どもがあや

かりたいという意味も含めています。

ゼラニウム 根洗いをして、親や先祖代々のつな

がりを表す長い根を見せています。

提供：室礼三千（しつらいさんぜん）

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020（火～土曜日午前10時～午後5時／日・月曜定休日）●体験教室もあります